

課題 ひも

「邦画」

人物

神道芳樹 (24) フリーター

倉沢ホナミ (24) (19) 看護師

伊藤レイナ (28) 女優

吉田一義 (24) 神道の友人

○映画のワンシーン

夕方の、海辺の砂浜。

→シャツと短パン姿の倉沢ホナミ（19）が、素足で砂浜を歩いている。

打ち寄せる波にのって、貝殻が落ちていく。

その貝殻を拾うホナミ。指先はほんのりピンクのマニキュアをしている。

とびっきりの笑顔をみせるホナミ。

次の瞬間、エンドロールのテロップが流れ、監督『神道芳樹』の文字がでる。

○住宅街 夜

街灯が照らす、人通りの少ない住宅街。

ダウンジャケットとマフラー、手袋をした神道芳樹（24）が、自転車でその前を通りすぎていく。

○アパート 外観（夜）

2階建てのアパート。鉄筋の階段は錆び

が目立っている。

自転車が止まり、神道がアパートの下で降りる。

神道、自転車に鍵をかけ、階段を上がっていく。

神道は機嫌よさげに鼻歌を歌っている。

○アパートのドア前(夜)

家の中は灯りがともっている。  
鍵をあけて中にはいっていく、神道。

○同 中(夜)

倉沢ホナミ(24)が、パソコンを開いたまま、コタツでうたた寝している。

マニキュアはしておらず、爪は短く切りそろえてある。

横には、仕事の資料(看護雑誌)が何冊かおいてある。

神道、そばにあったブランケットを寝ているホナミにかけてやる。

× × ×

ホナミが目を覚まし、台所のテーブルでカップラーメンを食べている神道に気が付く。

神道、食べている手をとめて

神道「くう？」

ホナミ「：ううん」

神道、ラーメンを食べはじめる。

ホナミ、起きて台所に行き、インスタントコーヒーを入れようとする。

ホナミ「あ、飲む？」

神道「いい。まだ仕事すんの？」

ホナミ「今日中につくらなきゃだし」

神道「：」

ホナミ「先、ねてていいから」

神道「：ああ」

ホナミ、カップにお湯を注いでいる。

神道は、その姿をみていたが、急に後ろからホナミを抱きしめる。

ホナミ「え？何？」

神道「別に：」

そのまま、神道、ホナミにキスする。

ホナミ「：お酒のんでる？」

神道「ちよっとだけ」

ホナミ「：」

神道「結構いい絵が撮れたんだよ。だから吉田達と」

ホナミ「吉田くん、まだ手伝ってくれてるんだ」

神道「まだじゃねえよ。ずっとだよ」

ホナミ「：いい人だね。就職したんじゃないかな  
ったっけ？」

神道「そう。だからこんな時間になっちゃって  
さ」

ホナミ「そうなんだ：」

神道。ホナミともう一度キスしようとする。  
る。

ホナミ「ちよ、だから私、まだ仕事か」

神道「感謝してる、ホナミには」

ホナミ「何、急に：」

神道「もう一回だけキスしよ」

ホナミ「ヨシくん：」

神道、ホナミに手を絡ませながら、キスを  
をする。

○同 (朝)

窓の外は明るい。

こたつで、パソコンに向かいながら、作  
業をしいてる、神道。

パソコン画面の中では、濃い化粧をした  
伊藤レイナ(28)が、バーのカウンター  
で男に口説かれているシーンが映って  
いる。

レイナの指先は、ボルドーのネイルがさ  
れている。

神道、その画像を編集している。

○居酒屋 (回想)

チェーン店の居酒屋。

神道、吉田一義(23)、レイナの3人で  
飲んでいる。レイナのメイクは薄化粧で、

服装はワンピース。ただし、指先はボルドーのネイルがしてある。

吉田「レイナさん、よく俺らの映画に参加してくれましたよね。自主なのに」

レイナ「映画にプロもアマもないもん」

吉田「そうですけど…」

レイナ「それに私、神道君のファンだし」

神道「え？」

レイナ「だから受けたの」

神道「それって…」

レイナ「ほら、学生の時、撮ったやつあったでしょ。砂浜のラストシーン、私、あそこ好きなんだあ」

神道「観ててくれてたんですか」

レイナ「あの出ていた子、すっごくいい表情が撮れてて、私もあんなふうに撮ってもらいたいなって」

吉田「レイナさん、あの子、今、こいつの彼女なんですよ」

レイナ「え？彼女さん、役者やってんの？だっ



たら、私じゃなくて：」

神道「いや、やってないです。看護師です」

吉田「こいつ、彼女に食わせてもらってるんですよ」

神道「…うるせえな、バイトはしてるよ」

レイナ「まあ、今は頑張る時期だもんね」

神道「…」

レイナ「これで賞とって、彼女さん、楽にしてあげなきゃ」

吉田「ほんととっすよ。俺も楽になりたいし」

レイナ「じゃ、頑張ろ。レイナも」

レイナ、笑いながらビールを飲むが、ワンピースの胸元が少し開いている。

その姿を、ビール片手にみている、神道。

○同（朝）

編集画面を真剣にみている、神道。

○同 中（夕方）

窓から、夕日が沈んでいく風景がみえる。

神道、パソコンを閉じて、煙草に火をつける。

満足げな表情で、夕日を眺める神道。

○石井病院 ナースステーション（夕）

窓から夕日が差し込んできている。

ナースコールがひっきりなしになっている。

記録を書いていたホナミ、立ち上がって  
ナースコールをとる。

ホナミ「今、伺います」

廊下から看護師の音がする。

看護師の声「倉沢さん、それ終わったら手伝って。緊入くるって」

ホナミ「わかりましたー」

コールの受話器をおく、ホナミの手。

ホナミ、窓からの夕日が眩しく、しかも  
っ面をする。

○電車の中（夜）

満員電車の中で、ホナミが立っている。

○アパート 外（夜）

錆びた階段を上っていくホナミ。

○アパート 中（夜）

ホナミが、玄関をあけて中に入ってくる。  
台所で、カレーを作っている神道の手が  
とまる。

神道「おかえり」

ホナミ「編集、おわったんだ」

神道「おう」

ホナミ、カレーの鍋をのぞいて

ホナミ「外からもいい匂いしてたよ」

神道「ホナミが好きなの中辛だから」

ホナミ「：ありがとう」

× × ×

部屋の電気は暗くしてあり、パソコン  
からの灯りが見えるのみ。

神道が編集した映像を心人でみている。

神道はそつとホナミの手を握ろうとするが、その手をさりげなく外す、ホナミ。画面はそのまま、エンドマークがつく。立ち上がり部屋の灯りをつけるホナミ。

神道「どうだった？」

ホナミ「いいと思う。すごく綺麗に撮れてた」

神道「今回、アングルとかも研究したんだよ」

ホナミ、そのまま台所にむかい、シンクの中にあつたカレー皿を洗い始める。

神道「：いいよ。俺が後で洗うから」

ホナミ「ヨシくん、ご飯つくってくれたんだし、そこ座ってて」

ホナミ食器を洗いだし、自分の荒れた手をみる。

神道「今度の休みさ、ひさびさに一緒に映画でもいかね」

ホナミ「：あーいいね」

神道、スマホをいじりながら

神道「この監督のがさ…」

ホナミ「たまには、洋画みたいかな」

神道「…めずらしいじゃん」

ホナミ「…うん」

一瞬、目が合うが、二人はどちらともな  
く目をそらす。 了